



令和3年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

代表理事長 小野寺 俊 幸

新年あけましておめでとうございます。

組合員並びに役職員の皆様には、

コロナ禍にあってもその苦境にも負けず、日々當農に更に邁進されておられることが存じます。

組合員並びに役職員の皆様には、コロナ禍にあってもその苦境にも負けず、日々當農に更に邁進されておられることが存じます。

今までの日常とは大きく変化した1年でありました。農業分野においても例外ではなく各種イベントは次の3つのテーマを伝えることを目的としております。

①食料自給率に対する理解促進と行動変容の喚起

②農業には多様な働き方があるということの周知とより多くの方が農業に携わっていただき、将来的に農業を仕事の選択肢として考えてもらうこと（本業以外に副業として農業に親しむ人々を「パラレルノーカー」と命名）

③日頃から道産農畜産物を食している道民の皆様に感謝を伝えること

の影響により、各作物の更なる需給緩和が懸念されているところで、ご尽力をされていることに対しても、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業は、米の作況指数が106の「良」、畑作物による影響が見られたものの平年並以上の結果となり、生乳も前年の実績を超える生産となり、地域、

J Aグループ北海道では、昨年よ

り道民の皆様に対し北海道農業か

ら行動を起こすことで、農業と人、作目によって違います。概ね良い出来秋を迎えることが出来たと感じております。

農村と都市、生産者と消費者の関係のあり方を見つめなおしていただきことを目的として「AGRICACTION! HOKKAIDO (アクション北海道)」と題した情

報発信を北海道の支援もいただき、スタートいたしました。「AGRICACTION! HOKKAIDO」は次の3つのテーマを伝えることを目的としております。

結びになりますが、本年は辛丑

年です。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢（耐える）」、「これから発展する前触れ」というような年になると伝えられております。

この謂われにあやかり、新型コロナウイルスの1日も早い克服とともに農業を仕事の選択肢として考えてもらうこと（本業以外に副業として農業に親しむ人々を「パラレルノーカー」と命名）

③日頃から道産農畜産物を食している道民の皆様に感謝を伝えること

本年は第29回JA北海道大会の実践最終年であることから、この

